

# 平成 23 年度 福祉のお仕事イメージ調査結果から

平成 23 年度に実施した「福祉のお仕事イメージ調査」の結果を取りまとめました。調査結果を元にポイントを整理しています。調査結果は岡山県福祉人材センターの HP でも公開しており、ダウンロード可能です。<http://www.fukushiokayama.or.jp/jinzai/sougou/jinzai-hp.htm>

## 1. 調査の概要

本調査は、福祉人材センターの就労斡旋業務に活用する目的で、本会会員で岡山県内で福祉サービス事業を実施する事業所に対して、福祉の仕事のイメージについてのアンケート調査を実施した。回答方法は FAX もしくはインターネット（できるだけ多くの職種の方に協力いただくため送付した調査票は複製可）として実施した結果、1,465 名より回答があった。

## 2. 回答者の属性

回答者の割合は、性別で見ると男性 18%、女性 80%（図 1）。年齢別にみると、「10・20 代」、「30 代」、「40 代」、「50 代以上」が全体の約 1/4 ずつという構成となっている。（図 2）職種別にみると、高齢者福祉関係が 37%、児童福祉関係が 31%、障害福祉関係が 16%とその他という構成であった。（図 3）

図 1 回答者の性別構成

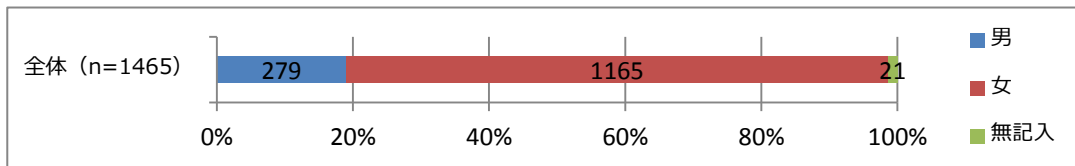


図 2 回答者の年齢別構成

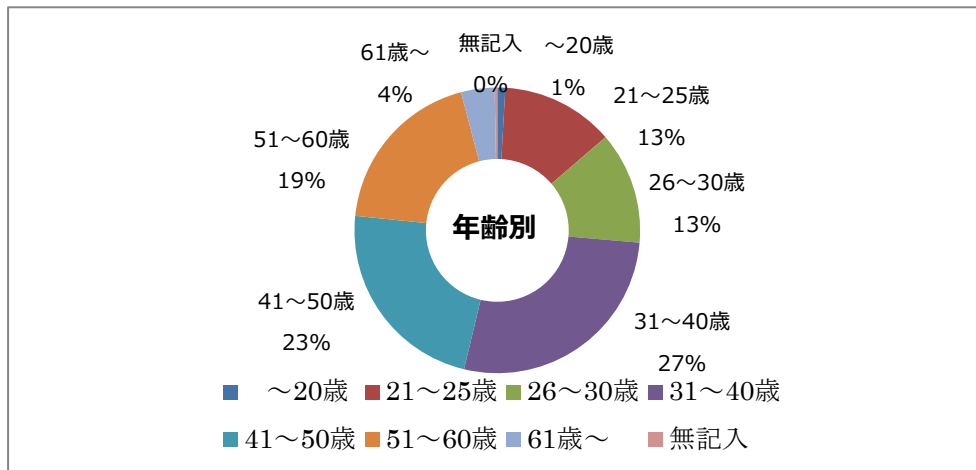
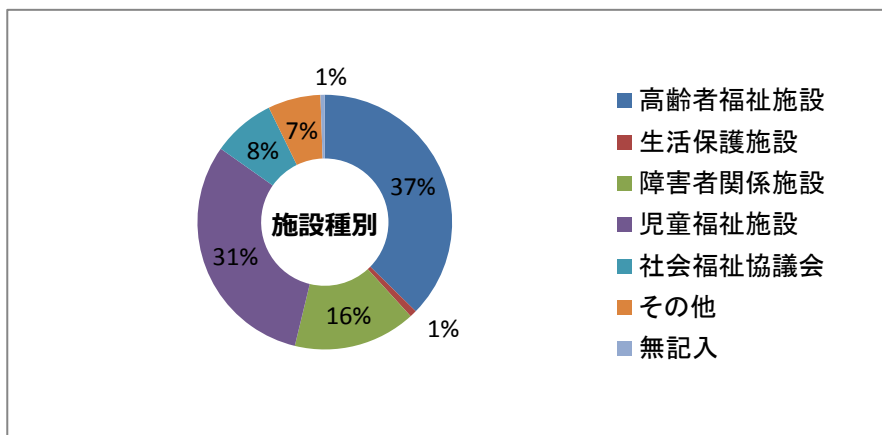


図 3 回答者の施設種別構成

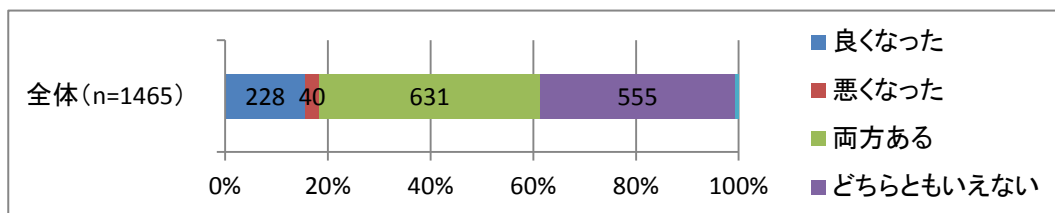


### 3. 福祉の仕事についてのイメージの変化・・・

#### 仕事に対するイメージの変化、良い悪い「両方ある」「どちらともいえない」が80%

就職前と就職後で福祉の仕事に対する認識が変わったかという問いについては、全体で見ると「良くなった」が16%で、「悪くなった」が3%、「両方ある」、「どちらともいえない」と回答した方については、全体の80%を超える結果となった。(図4)

図4 福祉の仕事についてのイメージの変化



イメージの変化の内容について回答理由ををまとめたものが以下の表1である。

表1 就業前後における福祉の仕事についてのイメージの変化

<p>◆働く前に持っていた仕事のイメージ◆</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 暗い、汚い ⇒ マイナスイメージ</li><li>・ 誰にでもできる、家事やお世話、ボランティアの延長 ⇒ 単純労働</li><li>・ 介護、支援はしてあげるもの ⇒ 一方的な支援をする仕事</li><li>・ 体力がないとできない、体を壊しやすい ⇒ 健康面できつい仕事</li></ul> <p>◆働いてから変わった仕事への認識◆</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 明るい、楽しい、働きやすい ⇒ プラスイメージ</li><li>・ 専門性が高い、洗練された仕事内容、自身の成長につながる奥の深い仕事</li><li>・ 利用者に教えてもらうことが多い、仕事と思えないくらい学ぶものが多い</li><li>・ 体力的にきつい部分も、技術や専門的知識があれば、緩和・軽減できる</li></ul>
---

これを見ると、福祉の仕事につく前は、大変な仕事というイメージが強いが、実際に働いてみると「人間が成長できる」「学びが多い」といったやりがいの大きい仕事だという認識への変化が多く見られた。

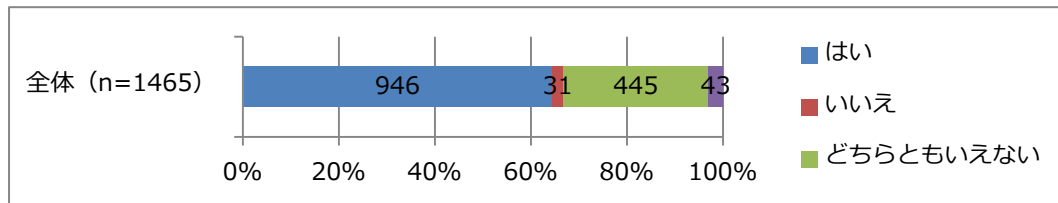
福祉の仕事へのイメージが悪くなった理由での意見は、給料が安いことが多く、他に休暇の取りにくさ、職員の質の違いの大きさ、体力がいる、書類事務の多さ、社会的評価が上がらないなどがあった。

良い悪い両方あると答えた方の回答理由を見ると、理想と現実のギャップがあり、利用者と関わる時間がないこと、制度のしがらみで十分な支援ができないこと、教科書通りにいかない支援の難しさ等思うように仕事ができないという意見、長く勤めている方から社会的な立ち位置の変化を感じることで、成長したいという意欲と待遇が改善されない不安の両方があるなどの意見があった。

## 4. 仕事の継続希望・・・福祉の仕事を長く続けたいが65%

「福祉の仕事をできるだけ長く続けたいか」という質問には、全体で「はい」と答えた方は全体の65%、「いいえ」とい答えた方は2%、「どちらともいえない」が30%であった。(図5)

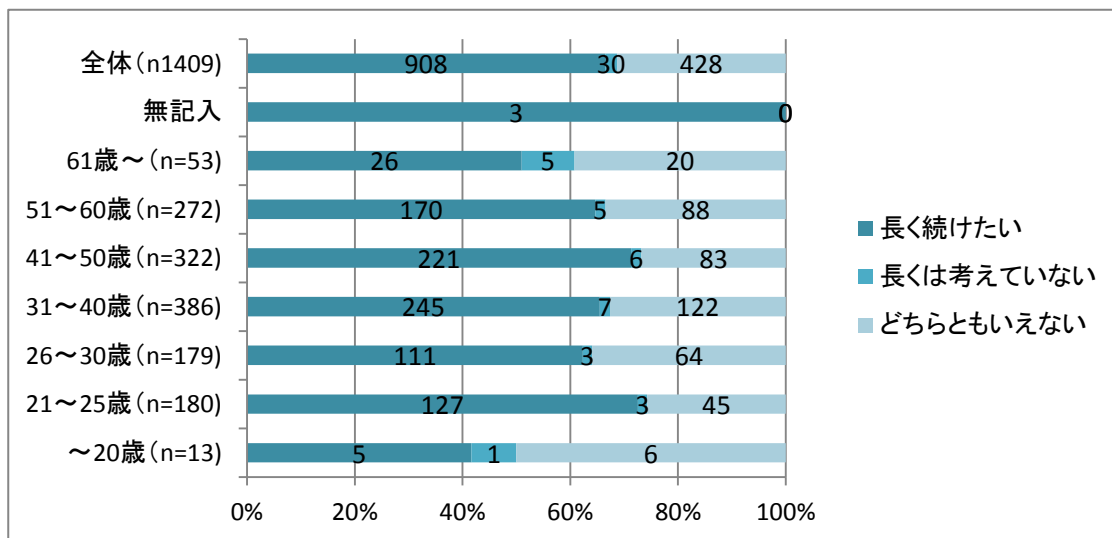
図5 福祉の仕事を続けることについての希望



年齢別にみると、50歳までは年齢を重ねるごとに継続希望が高くなっているが、26～30歳でこの割合が減り「どちらともいえない」と答える割合が増えている。(図6)

この年齢は一般的に結婚・出産等ライフイベントの多い世代でもあり、福祉業界の状況を踏まえ自身の将来設計を検討する時期ではないかと考える。30歳を過ぎると再び継続希望の割合が増えていることから、年齢と離職率の関係を調査し傾向を把握することは、勤続年数が短い職員の早期離職への対応についての対策を考えるヒントがあるのではないかと考える。

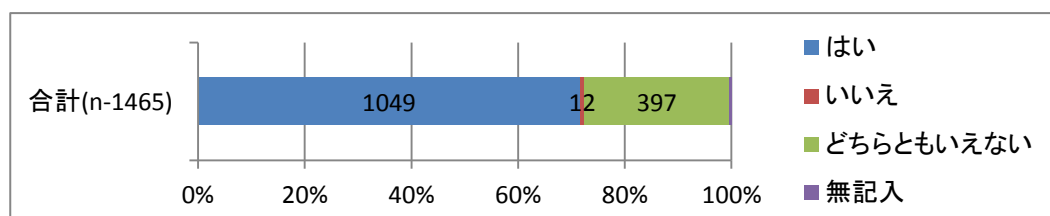
図6 福祉の仕事を続けることについて、各世代の意識



## 5. 福祉の仕事が好きな理由・・・「好き」と答えた方が72%

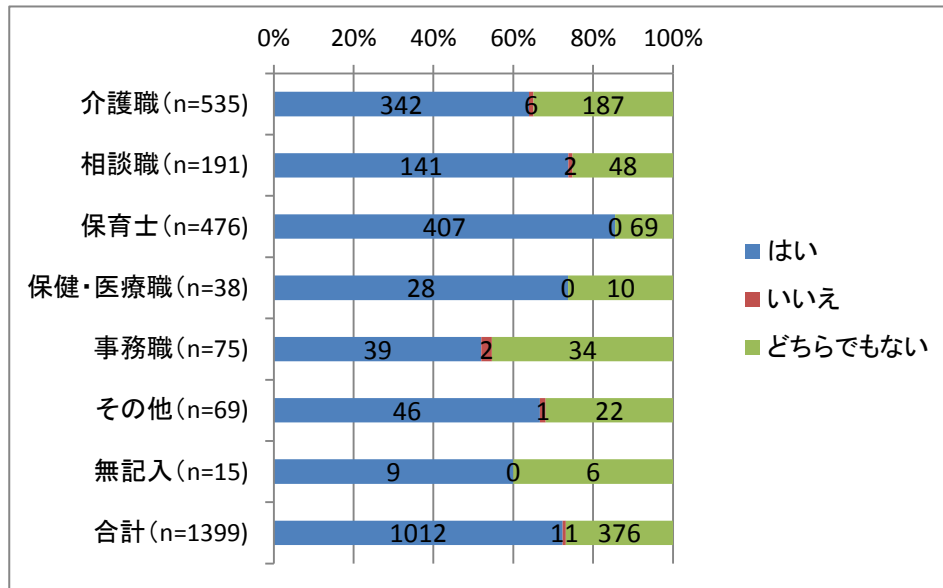
「福祉の仕事は好きですか」という質問には、全体の72%以上が「はい」と答えており、「どちらともいえない」が27%、「いいえ」と答えたのは全体の1%であった。(図7)

図7 「福祉の仕事が好きですか」という質問に対する回答



職種別にみると、「保育士」は 86%「はい」と回答しており、次いで「保健・医療職」「相談職」が 74%、「介護職」が 64%という結果となった。(図 8)

図 8 「福祉の仕事が好きですか」という問いについて職種別の回答



## 6. 福祉の仕事が好きの人に共通する 3つの認識

「仕事が好き」と答えた方の回答理由を分析すると、人と関わる仕事ゆえの喜び、楽しさ、また難しさも含めてやりがいにつながっているという回答が多く見られた。それらを整理すると、以下の3つに大きく分類できた。

1つは仕事に対する認識である。「好き」と答える方に共通するのは、福祉の仕事は、まず人が相手であり、対人援助という仕事内容に求められる専門性にどの職種の方もプライドを持って仕事をしていることである。

2つ目は仕事から得られるものへの認識である。利用者に関わることで得られる喜び、感謝の言葉が自身の存在意義を確認させ、人の役に立っているという実感が持てる仕事であるということである。

そして3つ目は仕事の枠を越えて得られるものがあるということである。多くの人が支援を通して、様々な利用者の人間性に触れる中で自身が支援されている、自分が逆に励まされていると感じる経験を経ており、そうした部分に気づくことで自身の内面が豊かになり、自己の成長につながっていることを認識していることである。

こうした認識で仕事をしている方は、毎日の業務を「同じことの繰り返し」ととらえず、小さな変化を大切にして、実践のあり方に悩みながらも生き生きと仕事に取り組んでいる姿勢がうかがえた。

## 7. 調査全体を通して

中央福祉人材センターの発表している福祉分野の求人数・求職者等の概況を見ると、有効求人倍率は、2.30倍と高い数字を示している。一般的に他の産業と比べて離職率が高いと言われる福祉業界では、これは常態的な求人募集の状況であり、福祉の職場の人材不足が続いていると言える。そんな中で行った今回の調査の目的は、福祉の仕事のイメージを把握することで、福祉人材センターの就労斡旋業務において、仕事のイメージを正確に伝え、効果的なマッチングを実施していくことであった。

結果としては、目的以上に有益なデータ収集になったと考えている。特に「福祉の仕事のイメージの変化」や、「福祉の仕事が好きな理由に共通する認識」については、寄せられた回答を分析することで今後の事業を考えるうえでたくさんのヒントがあったと感じており、今後必ず活用していく。